

JOSS2026

▶researchmap

研究者の負担軽減に向けた PID活用事例

2026年6月25日

科学技術振興機構
情報事業部
小薬 有沙

<https://researchmap.jp/>

PID利用のメリット

● 一般的なメリット

- 一意に識別可能
- 正確なメタデータの管理が容易
- 研究成果の追跡・評価が容易
- システム間の相互運用性が向上 等

● researchmapにおけるメリット

- 表記ゆれなどの問題の解消（正確性の向上）
- コンテンツの認知度・流通性向上
- 研究者の負担軽減

researchmapの概要



日本の研究機関に在籍する研究者を中心に
経歴や研究業績を掲載するインターネット上の
データベースサービス

- ▶ 登録研究者は40万人以上
- ▶ 研究者が業績を管理・発信
- ▶ 研究費の申請・報告に利用可能

researchmapの概要



日本の研究機関に在籍する研究者を中心に
経歴や研究業績を掲載するインターネット上の
データベースサービス

- ▶ 登録研究者は40万人以上
- ▶ 研究者が業績を管理・発信
- ▶ **研究費の申請・報告に利用可能**

e-Radでの論文情報入力

e-Radでの研究費申請・報告時には、論文情報の入力が必要。

①手入力

非常に大変

毎回異なるCSVを作成する必要

②CSVのアップロード

③researchmap上のデータから選択

論文をresearchmapに登録していれば、選択するのみ

researchmap



①researchmap ID



②論文

e-Rad



researchmapの概要

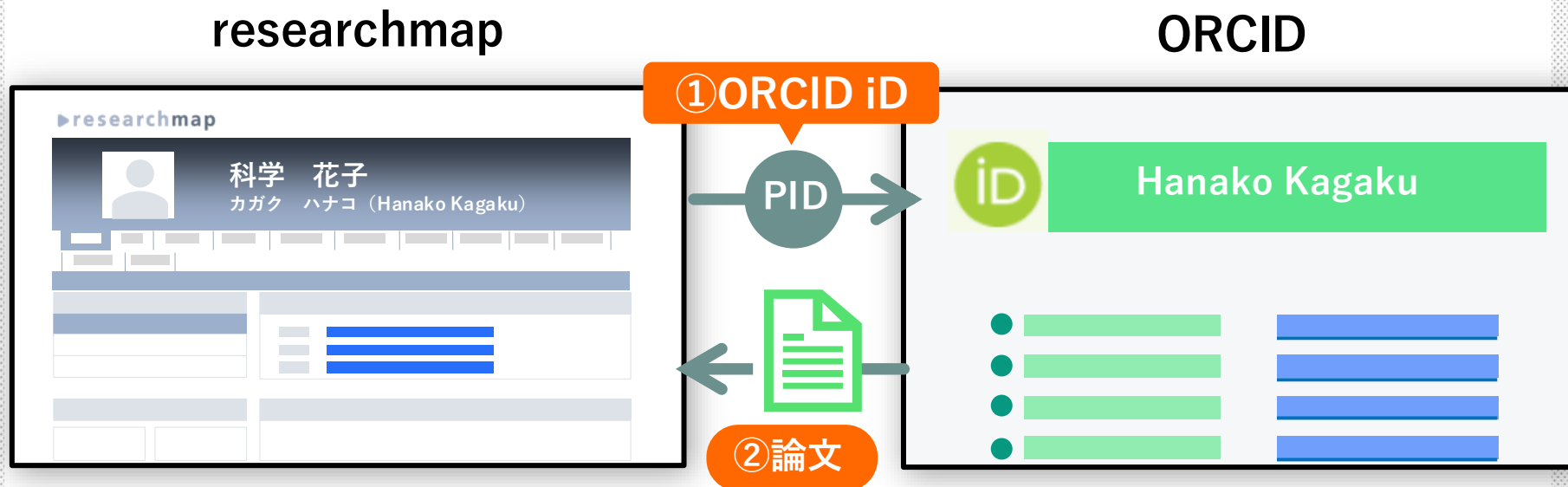


日本の研究機関に在籍する研究者を中心に
経歴や研究業績を掲載するインターネット上の
データベースサービス

- ▶登録研究者は40万人以上
- ▶研究者が業績を管理・発信
- ▶研究費の申請・報告に利用可能

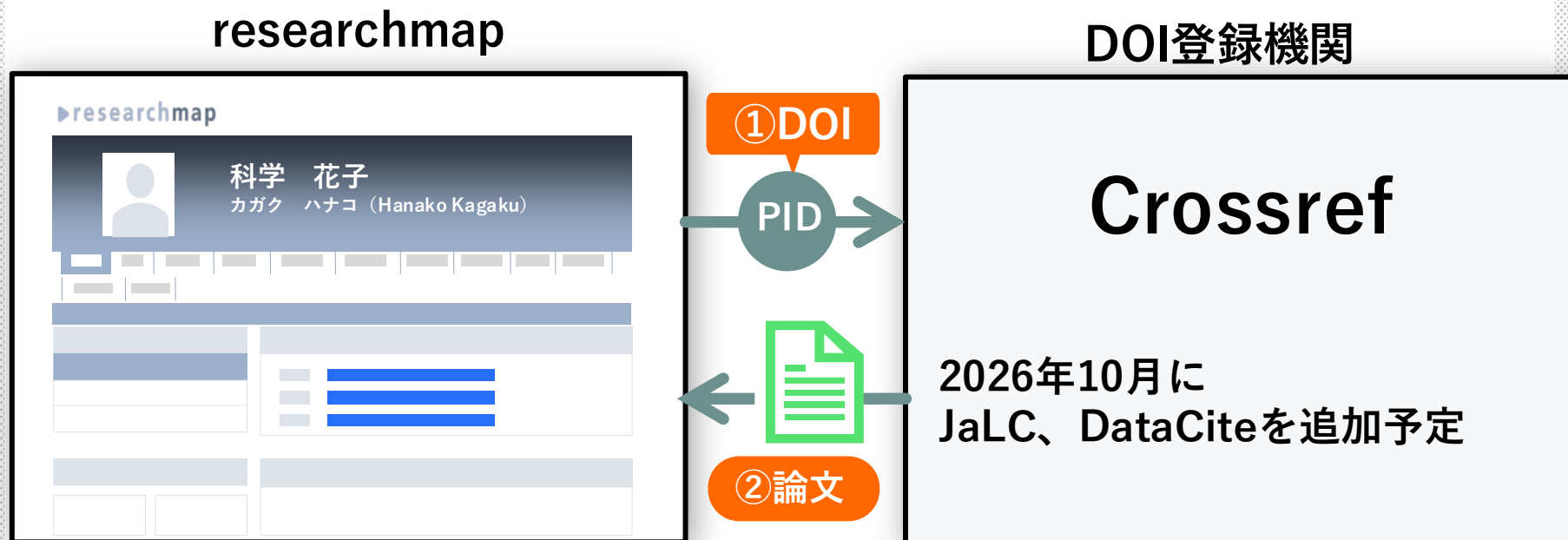
PIDを利用

researchmapにおける論文登録（PID連携例①）



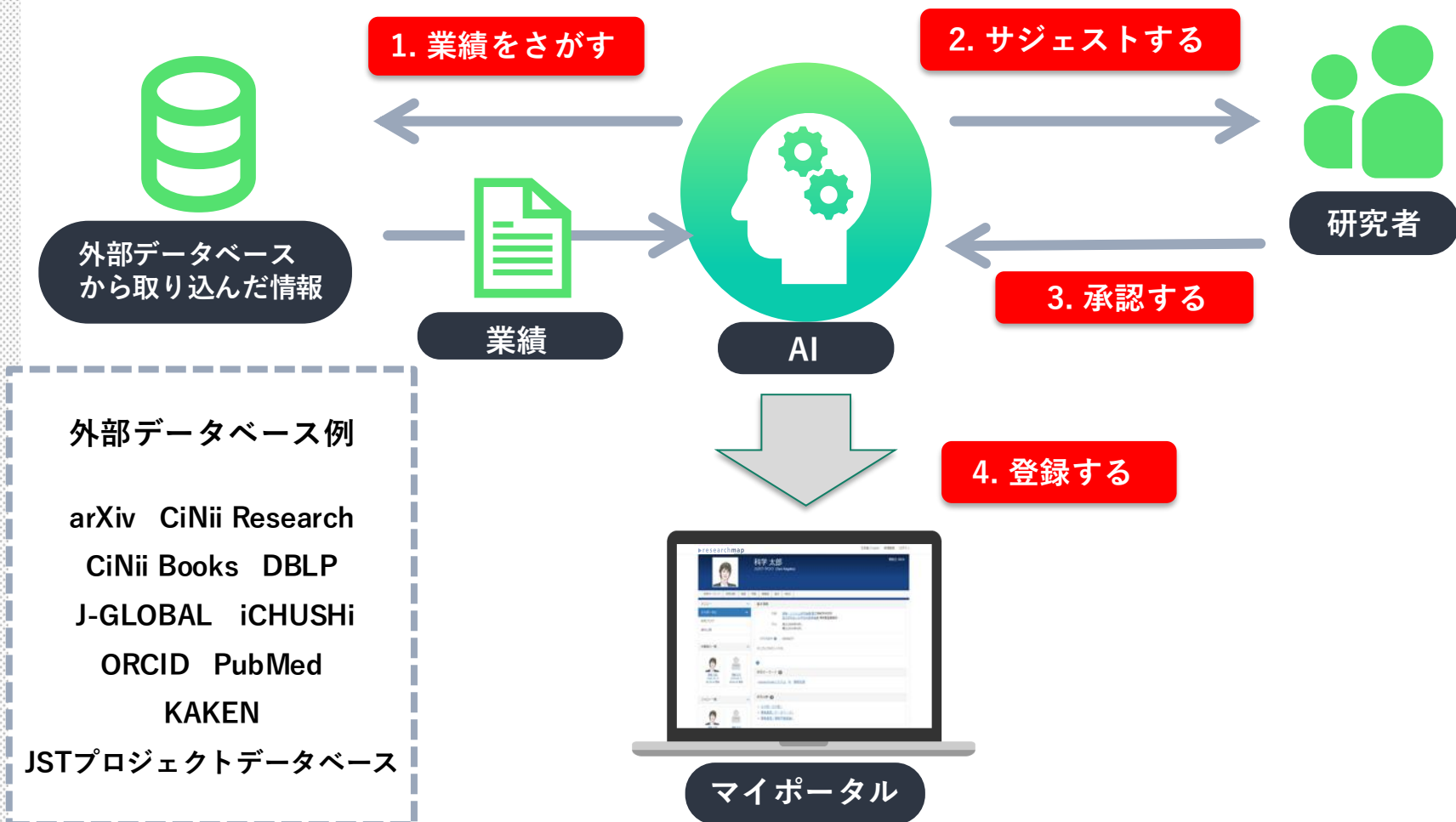
researchmapにORCID iDを連携させておくと、
ORCIDに登録している論文データを
researchmapへ取り込むことが可能

researchmapにおける論文登録（PID連携例②）



researchmap上でDOIを入力、検索すると
Crossrefから論文データを取り込むことが可能

researchmapにおける業績登録（AI活用）



researchmapにおける情報流通 (全体概要)

研究者

PID利用や
AIサジェストの承認



選択のみ

手入力



▶researchmap

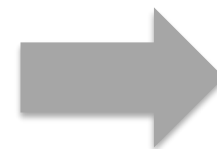
- 基本情報
- 研究キーワード
- 職歴・学歴
- 所属学協会
- 委員歴・受賞歴
- 論文・書籍
- 講演・口頭発表
- 競争的資金

等

情報
取り込み



情報活用



外部データベース例

arXiv CiNii Research
CiNii Books DBLP
J-GLOBAL iCHUSHI
ORCID PubMed

等



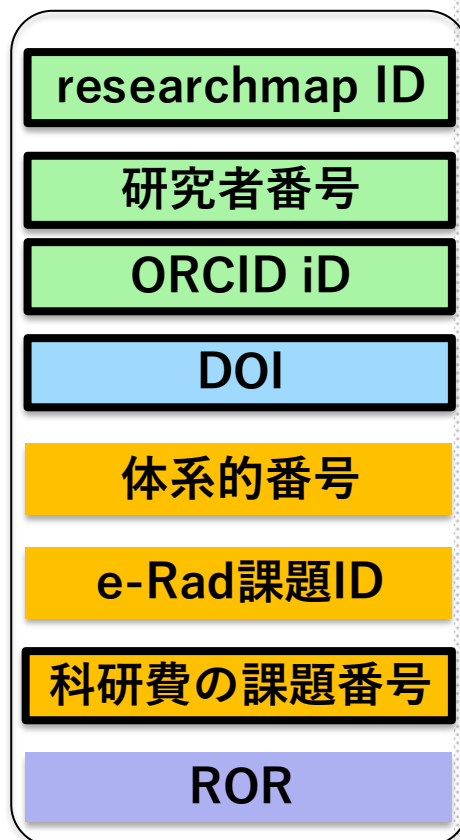
今後の課題

- 正確な情報を広く重層的に流通させることで、
アカデミアの情報基盤を整え、総合力を高めることが必要
 - 研究者の負担軽減による研究活動への注力
 - 成果のプレゼンス向上による共同研究等の促進
 - 研究者のコミュニティ形成力向上

等

- そのためには日本におけるPIDエコシステムの構築が重要
 - researchmapにおいても、どのようなPIDをどのように活用するかという戦略が必要

日本国内で認知されている
主なID例



凡例：
researchmap
で導入済

ご清聴ありがとうございました！



ようこそ！ researchmapへ！

業績管理をもっと簡単に、もっと快適に。

researchmapお問い合わせフォーム
<https://researchmap.jp/public/inquiry/inquiry>